

平成28年度

損害賠償事故事例集



刈払機イラスト:農研機構ホームページ「農作業安全ポイント刈払機」転載

公益社団法人 香川県シルバー人材センター連合会

近年、損害賠償事故が多発しております。
このような状況の中、香川県安全・適正就業委員会において、傷害事故報告と同様に、損害賠償事故についても速報として、各センターから報告をしていただくよう提案がありました。事故の防止のためには、大切なことであり、平成28年度から開始いたしました。

このたび、各センターから、ご報告いただきました事故について、事例集として取りまとめました。

会員各位が、この事例集の事故状況等を読んでいただき、損害賠償事故が、1件でも減少するようお願いしております。

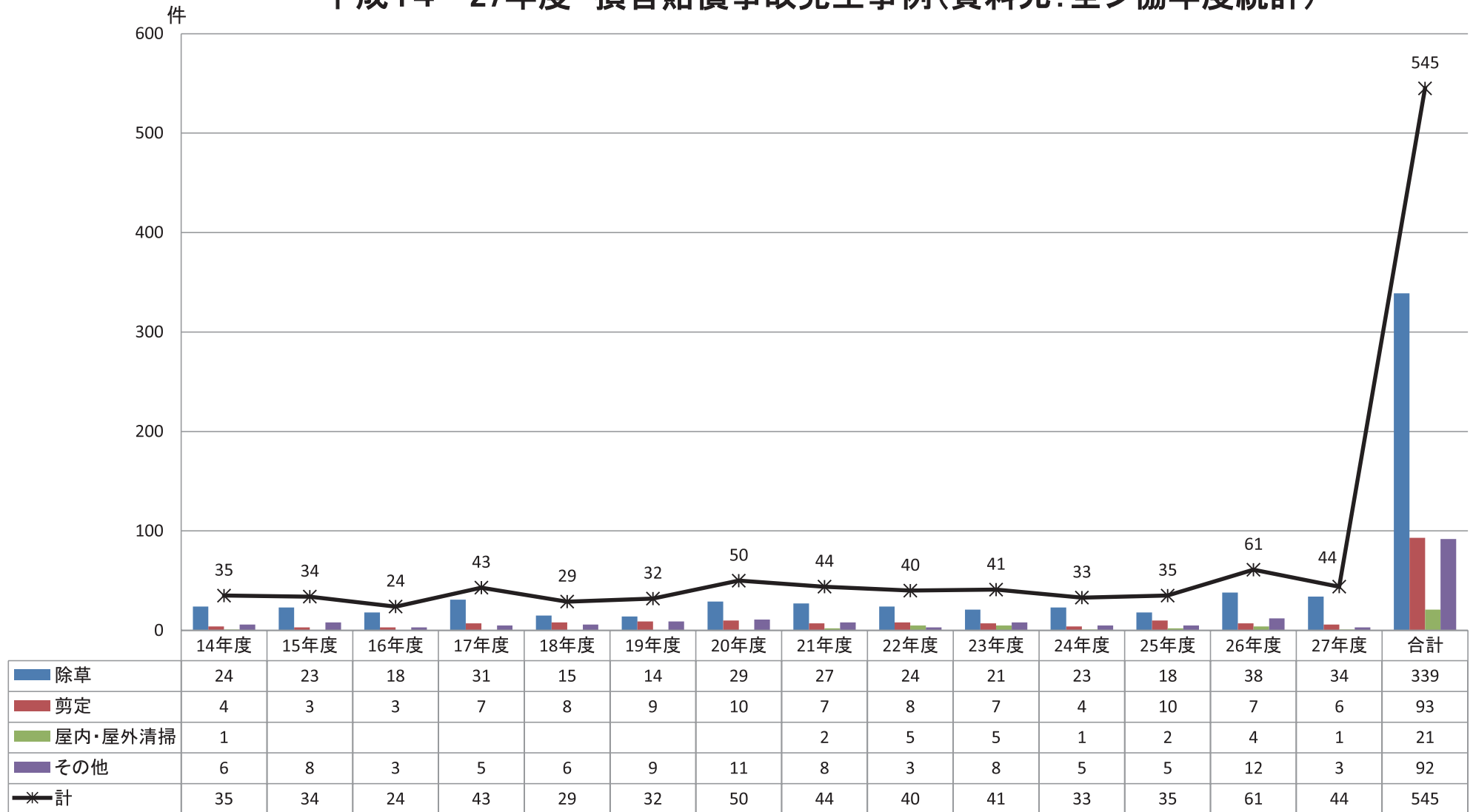
各センターの関係者の皆様には、ご報告のお礼を申し上げます。

平成29年4月

公益社団法人 香川県シルバー人材センター連合会

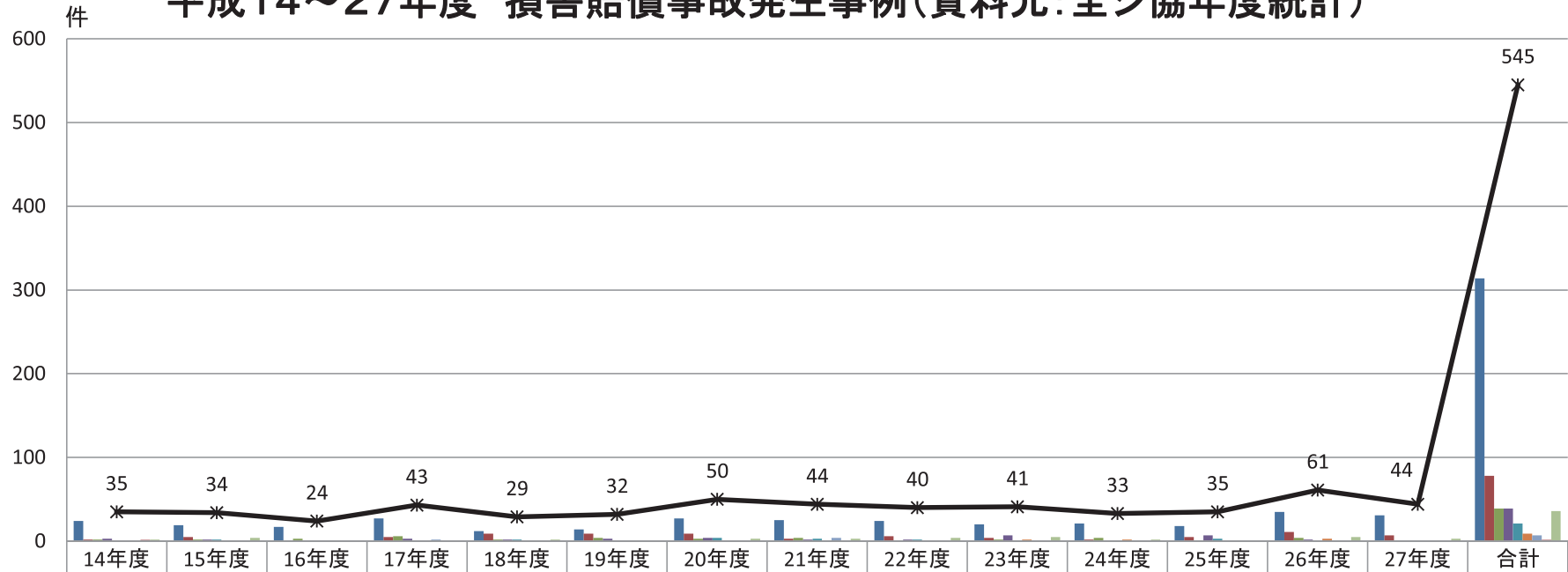
事故が多い職種

平成14～27年度 損害賠償事故発生事例(資料元:全シ協年度統計)



事故の型

平成14～27年度 損害賠償事故発生事例(資料元:全シ協年度統計)



	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
飛散損壊	24	19	17	27	12	14	27	25	24	20	21	18	35	31	314
接触	2	5	1	5	9	9	9	3	6	4	2	5	11	7	78
落下	2	2	3	6	2	4	3	4	1	2	4	1	4	1	39
倒しぶつけ	3	2	1	3	2	3	4	2	2	7	1	7	2		39
誤作動		2			2	1	4	3	2	1	1	3	1	1	21
運搬搬出中									1	2	2		3	1	9
汚損・変質			1	2				4							7
焼損	2														2
その他	2	4	1		2	1	3	3	4	5	2	1	5	3	36
※計	35	34	24	43	29	32	50	44	40	41	33	35	61	44	545

(グラフの概要説明)

平成14年度に、香川県シルバー人材センター連合会に安全就業パトロール指導員が設置されて以来、平成27年度までの間、全シ協の年度統計からみると、損害賠償事故が、545件発生しております。毎年およそ39件の事故が起きたこととなります。単純に、月平均3.2件を超えた賠償事故が発生している状況です。

平成26年度の61件をピークに、翌27年度は、44件に下がっております。

事故が多い職種は、除草、剪定で、累計545件のうち432件を占め、率にして79%を突破しております。しかも、この78%にあたる339件は除草中です。

事故の型は「飛散させた物で損壊」が、累計545件のうち314件を占め、率にして58%に上っております。グラフ表示は、略しておりますが、この95%にあたる300件は除草中です。

平成28年度から、各センターの協力のもと、県シ連が独自に損害賠償事故発生速報の調査を開始して、集計した結果、速報値で52件発生しました。年度統計上、平成27年度の44件発生と比べて、8件も増えております。

統計処理の基準が異なるため単純比較はできませんが、増加傾向にあります。

多く発生している事故として、除草が67%の35件、事故の型も、「飛散させた物で損壊」が29件で56%を占め、その全てが除草作業です。

このように、損害賠償事故の特徴としては、除草作業中に「飛散させた物で損壊」するケースが圧倒的に多いようです。全国的にも同様の除草事故が多く発生しており、その主な原因として、全シ協が指摘している次の事項を遵守して安全就業に努めてください。

- ① 就業場所の作業前の確認不足
- ② 作業時の周囲の注意不足
- ③ 飛散防護ネットの未使用
- ④ 慣れによる不注意

平成28年度 損害賠償事故発生状況(速報)

安全対策等の凡例

○ = 着用、設置、適正、実施 × = 未着用、未設置、未実施 △ = 不適正 — = 不用

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再発防止策	安全対策等						発生日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認	そ の 他		
1	除草	○		69	○				13	草刈作業中、チップが飛散し、走行中の車のリアガラスを破損した。 作業量が少なかつたため、飛散防止ネットを使用せず作業した。	大丈夫と思った。	作業量の大小に関わらず、飛散防止対策を行う。	○	—	○	×	○	—	—	4/19
2	"	○		66	○				2	屋敷の草刈り作業中、飛び石が近くに止めてあった車のガラスを破損した。 就業後に、指摘されて気が付いた。 注意不足、事故に対する意識が低いことが原因。	大丈夫と思った。 気が付かなかった	就業場所の近くに車がある場合は、草刈りはしないよう注意する。	—	—	○	×	×	—	—	5/6
3	"	○		72	○				2	草刈作業中、小石が飛散し、車のフロントガラスに傷つけた。 間にはコンクリートブロック塀があり、車との距離も15m程離れていたため、飛散防止ネットを使用せず作業した。	大丈夫と思った。	作業量の大小に関わらず、飛散防止対策を行う。	○	—	○	×	○	—	—	5/13

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日		
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他	
4	"	○		73	○				5	草刈作業中、石が飛んで付近駐車中の車の右ドアガラスを破損した。作業後に判明したため、どの作業者によるものかは不明。周囲の確認不足やカバーの取付位置不適正、防護ネットの不使用が要因。	気が付かなかった。予想外であった。良く見えなかった。	再発防止策を検討し、会員に周知する。	○		○	×				5/14
5	"	○		76	○				1	草刈機で跳ねた石で、駐車してある車のガラス等を、破損させた。安全距離の見誤り。チップでなくナイロンコードを使用していたため、思いのほか、石が跳ねた。今後一層、注意する。	思った以上飛んだ。	安全距離の見直し。	○		○	×	○			5/18
6	"	○		76				○	2	ミカン畑の草刈り中に、誤ってミカンの苗木(3年生)を刈ってしまった。事前に注意されていたため、作業前に歩いて、苗木を確認し、草をかき分けていたが、隅のほうの苗木を見落とした。	気が付かなかった。油断していた。	発注者と、現場で植えている位置や本数を確認し、目印を立てるようにする。	×		○		○			7/9
7	"	○		78	○				5	草刈作業中、小石が飛散し、車のサイドガラスに傷をつけた。飛散防止ネットを使用していたが、事故があった箇所をカバーできなかった。	大丈夫と思った。	飛散防止対策を徹底する。	○		○	○	○			7/19

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バー	ネ ット 等	作 業 前 確 認		そ の 他
8	"	○		79	○				2	草刈り機で、除草中、飛散防護ネット(ブルーシート)で防御していたにもかかわらず、勢いが強く車のガラスが破損した。 車の移動ができず、防御判断が甘かった。	予想以上の結果に反省した。	—	○	—	○	○	○	—	7/20
9	"	○		75	○				5	道路沿いの公園の草刈り作業で、飛石が道路を走行していた車にあたり、窓ガラスが破損した。 交通量が少なく心配ないと過信して、飛散防止ネットを使用しなかった。	大丈夫と思った。 油断していた。	飛散防止ネットを使用するよう周知する。	○	—	○	×	○	—	7/21
10	"	○		79		○			4	植え込みの中を除草中、ツタを根から除こうとテコの原理で作業しており、散水ホース4カ所に傷が入った。 ホースの存在を忘れていた。	—	—	○	—	○	×	○	—	7/23
11	"	○		69	○				3	役所の依頼を受けて、役場サツキ園の雑草の刈り取り作業中、刈り払い機で小石を飛散させて、職員の自家用車バックドアガラスを破損させた。	注意・確認不足。 深く考えなかった。	事前打ち合わせの強化。 事故防止措置の徹底。	×	—	○	×	×	—	7/25

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心情	再発防止策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛散	接触	落下	その他					安全 帽	安全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
12	"	○		77	○				7	刈払機で雑草の刈り取り作業中、草丈が高かったため、地面に這わせていた水道用ゴムホースに気付かず、そのまま水道用ゴムホース上部を切り、漏水させた。	作業前の確認不足。 深く考えなかった。	刈払機使用時においては、使用前に必ず周囲の点検をするよう周知する。	×		○	×	×		8/12
13	"	○		74	○				11	植栽内の草刈り作業中、駐車していた自動車の左後部ガラスを石で飛散させて割ってしまった。 10m程度離れており、心配ないと防護柵をしてなかった。	予想外に飛んでいった。	付近に自動車等があるときは、車両の移動を求めたり、飛散防止ネットの使用を徹底するよう周知する。	×		×	×	○		8/22
14	"	○		66	○				1	草刈中、前面道路を通行中していた乗用車のガラスを破損した。 大きな石の間から生えていた草を無理して草刈り機で刈ったためと、最近のチップ刃の品質低下によるため。	大丈夫と思った。	作業敷地内に車が止めてあるため、飛散防護ネットを使用していたが、敷地入口の前の道路を時々車が通るため、作業を一時中断する指示ができるような複数体制を今後検討する。	×		○	○	○		9/2
15	"	○		64	○				5	アパートの戸別の庭を草刈機で作業中、石を飛ばせて、窓ガラスを破損した。 庭や周囲のブロック塀に草刈り機の刃が当たり、チップの刃が折れて、飛んだ事故と思える。	気が付かなかった。	飛散防護ネットの使用を徹底する。	×		○	×	×		9/6

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心情	再発防止策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛散	接触	落下	その他					安全 帽	安全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
16	"	○		74	○				5	太陽光パネルの周囲の草刈り中、小石が飛び、表面のガラスを破損した。 壊れやすい物の周囲の草刈りを行った。	気が付かなかった。	太陽光パネルの周囲の草刈り作業は受注しないこととする。	○	—	○	×	○	—	9/7
17	"	○		73	○				2	刈払機で休耕田を草刈り作業中、隣家よりベランダガラスが割れているとの申し出を受けた。 他に原因が考えられなかったため、当該草刈りが原因と判断した。 注意、確認不足。 隣家の近くでの飛散防止措置の怠慢が原因と思える。	大丈夫と思った。	刈払機使用時は、事前に周囲を点検する。 同様の事故が続くときは、同種の作業の就業停止の措置をする。	×	—	○	×	×	—	9/15
18	"	○		73	○				7	発注者の敷地内で刈り払機を使用中、飛石が隣接住宅の窓ガラスにあたり破損させた。 防護ネットを使用していたが、予想外の方向に小石が飛んだ。	大丈夫と思った。	飛散防止ネットを使用するように指導する。	○	—	○	×	○	—	10/7
19	"	○		75	○				4	除草中に、小石が飛散して駐車中の車の右側運転席側ドアガラスにあたり損壊した。 作業前に確認した際は、心配ないと考えていたが、作業中の状況確認の不十分さが原因と思える。	大丈夫と思った。	飛散防護用具の使用を勧めるとともに、安全就業の意識付けを再度指導する。	—	—	△	×	○	—	10/11

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心情	再発防止策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
20	"	○		73	○				1	道路沿いの空地进行草刈り中、飛石が、信号待ちで停車中の軽自動車のフロントガラスにあたり破損させた。 交通量は多かったが、一人作業のため飛散防止ネットを使用していなかった。	大丈夫と思った。 油断していた。	今後は、2名以上で作業を行うようにする。 さらに、飛散防止ネットを使用するように指導する。	×	—	○	×	○	—	10/13
21	"	○		76	○				3	草刈作業中、小石が飛散し、車のサイドガラスを破損した。 休耕田の草刈りのため、小石があると想定していなかった。	予想外であった。	飛散防止対策を徹底する。	×	—	○	×	○	コ ー ン 設 置 済	10/17
22	"	○		78		○			2	アパートの庭の除草中に、アパート壁面に設置された電気温水器用給水パイプに、草刈り機の刃が接触し、パイプを損傷した。 現場状況を十分確認できてなかったため発生した。	気が付かなかった。	飛散防護用具の使用を勧めるとともに、安全就業の意識付けを再度指導する。	—	—	△	×	○	—	10/20
23	"	○		68	○				5	草刈時、近くの車は移動してもらっていたが、その奥に止めてある車まで、石が飛散して窓ガラスを破損した。 石の飛散距離の想定が甘かった。	大丈夫と思った。	草刈時は、周囲に十分注意するよう指導する。	○	—	○	×	○	—	10/20

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
24	"	○		75	○				2	町営住宅庭を除草中、石飛散により、向かいの町営住宅窓ガラスに数ミリのヒビが入った。 就業会員はベテランで、過去の経験から飛散の可能性は少ないと判断して作業を行った。 事故当時、損害を与えたことに、気が付かなかった。	大丈夫と思った。	—	×	—	○	×	○	—	10/20
25	"	○		62	○				6	池の堤防を刈り払機で除草中、たまたま通りかかった軽自動車のフロントガラスにあたり破損させた。 大部分は、小石の無いところであったが、一部小石がある場所で、作業を行う際に注意不足であった。	深く考えなかった。	作業に細心の注意をするよう喚起した	○	—	○	×	○	—	10/25
26	"	○		72	○				7	校庭の除草作業中に小石が飛散して校舎の窓ガラスを破損した。 会員が手作りした飛石防止対策の道具を使用していたが、道具のすき間から飛散した。	気が付かなかった。	飛石対策用道具の改良を検討し、作業工程の見直しをしていく。	—	—	×	○	○	—	10/25
27	"	○		69	○				3	市道の除草中、後方進行中の軽自動車左側前のガラスに小石があたり損傷した。 人員の配置と現場状況確認の甘さが原因。	ガラスにあてたことを知らなかった。	飛散防護用具の使用を勧めるとともに、安全就業の意識付けを再度指導する。	×	—	○	×	○	—	10/26

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日			
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他		
28	"	○		70		○				2	草刈作業中、草むらの中にあつた電 気ケーブルを切断した。 草むらの中のため気付かなかった。	予想外であつた。	周辺に注意を払い、危 険を予知するよう指導す る。	×		○		○			10/29
29	"	○		68		○				2	フェンス内を除草作業中に石が飛散 させて、近く走行していた車の後部座 席の窓ガラスを破損させた。	油断していた。	飛散防止のため、シー ト、コンパネで飛び散ら ない対策をする。	×		○	×	○			11/7
30	"	○		76		○				5	保育所の敷地内で、教室と外壁との 間の園庭を除草作業中、石が飛散さ せて、教室の窓ガラス1枚を破損させ た。	予想外であつた。	飛 散防止のため、シー ト、コンパネで飛び散ら ない対策をする。	×		○	×	○			11/22
31	"	○		71		○				2	除草作業中、作業場所から15m離 れた自宅前に駐車中の軽4自動車の リヤウインドガラスを、飛散した小石 で破損させた。 現場付近が住宅街のため、家の窓 ガラスばかりに気を取られ、停車中 の車の窓ガラス対策がおろそかにな つた。	予想外であつた。	—	×		×		○			12/2

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
32	"	○		74	○				5	除草作業中、飛散した小石が軽トラックの運転手側の窓ガラスに当たり破損させた。 石の飛散距離の想定が甘かった。	予想外であった。	草刈時は、周囲に十分気を付けるよう指導した。	○	○	×	○		12/6	
33	"	○		77		○			1	除草作業中、草刈り機の刃が車に接触して、車体の一部が破損した。 作業範囲内に車があったが、所有者に車の移動を依頼しないまま、作業を続けたため事故が発生した。	気が付かなかった。 大丈夫と思った。 油断していた。	作業範囲内に車などがあつた場合は、移動をお願いして、無理に作業を続けないう指導した。	○			×	×		12/26
34	"	○		73	○				7	除草作業中、小石が飛び、駐車中の軽ワゴン車右側の後部ガラス破損。 草刈り現場付近に、駐車中の車があることは知っていたが、予想以上に小石が飛んで行った。	大丈夫と思った。 油断していた。	作業現場に近い場合は、車の移動をお願いする。車が移動してから、作業を再開する。 また、飛散防護対策ネットなども使用する。 無理に作業を続けないう指導した。	○		×	×	×		2/16
35	"	○		70	○				2	除草作業中、小石が飛散して、駐車中の車のサイドガラスを破損。 飛散防止ネットを使用せずに、作業をしていたため。	大丈夫と思った。	飛散防止対策の徹底を図る。	×		×	×	○		3/24

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日		
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安全 帽	安全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他	
36	剪定	○		75		○			2	庭木剪定で脚立を移動をしていた時、脚立が灯籠に当たり、さらに灯籠が漆喰壁に当たり、灯籠と壁が破損した。 庭が非常に狭く、灯籠も不安定な高いところがあり、古いものだったので割れやすかった。	油断していた。	狭い場所での脚立の移動は、周辺の財物を傷つけないよう慎重に、かつ複数体制で実施するよう指導した。	○	○				○		9/27
37	"	○		75					2	指定された枝を切断するだけでなく、根元から伐採してしまった。 発注者との打合せの不徹底が原因。	深く考えなかった。	事前確認の徹底や、現場における作業前の再確認を行うよう指導した。	○					○	三脚取扱○	10/4
38	"	○		68		○			3	作業終了後、大鋏を樹木上に置き忘れたまま、(後始末の)掃除をしていた時、何かのはずみで、この鋏が落下して、瓦を損壊させた。 剪定道具の落下事故は十分予見できたはずだが、安全に対する配慮が不足していた。 (鋏の仮置きを)忘れていた。	注意が不足していた。	作業中、また終了後、常に作業道具の仮置き等、道具の管理には、十分注意するよう指導した。	○	×				○	三脚取扱○	10/18

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日	
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他
39	"	○		73		○			3	発注者の敷地内で剪定作業中、誤って電話線を切断した。	気が付かなかった。	作業に細心の注意をす るよう喚起した。	○				○	三 脚 取 扱 ○	10/21
40	"	○		80		○			1	空家の剪定作業中、車庫への電気引込線を誤って、切ってしまった。 引込線に、ツタが巻き付いており、線の存在に気付かないまま、ツタを除去しようとした。	気が付かなかった。	発注者所有の動産物、特に収益性のあるものについては、就業を控える。 発注者からの要望が強い場合は、作業範囲や事故時の対応について、事前に、十分打合せしておくよう指導する。	○	○			○	三 脚 取 扱 ○	12/20
41	"	○		65			○		5	剪定作業時、切り落とした枝が、下にあるポリカーボネイト製カーポートに当たった。 剪定時の枝の落下防止対策が出来てなかった。	油断していた。	剪定時は、周囲に十分注意するよう指導した。	○				○		12/24
42	"	○		74				○	6	空家の樹木伐採作業中、残しておくべき木まで伐採した。 指示事項の勘違いにより発生したことが原因。	予想外であった。	—					○		2/2

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日		
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他	
43	屋内作業	○		73				○	2	不用品の投棄作業中、誤って床下 収納庫のフタを、その他の不用品と一 緒に積込投棄した。 事前打合せ不足と作業時の確認不 足が原因。	深く考えなかった	今後は、事前打合せを 強化するよう指導した。						×		4/2
44	"	○		69				○	1	家電(冷蔵庫)を室内から運び出す ため、廊下に毛布を敷いていたが、廊 下に傷をつけた。さらに、玄関から冷 蔵庫を傾けて出している時に壁の一 部にも傷をつけた。事故防止のため 毛布を敷いて対処していたため、傷を つけるとは全く思っていなかった。	予想外であった。	—						○		6/22
45	"	○		68		○			68	モップで清掃中、モップが壁(タイル) にあたり、タイルが割れた。 モップの固い部分が当たったと思わ れる。	予想外であった。	財物に対して注意を払 い、慎重に作業を行うよう 指導する。						○		10/3

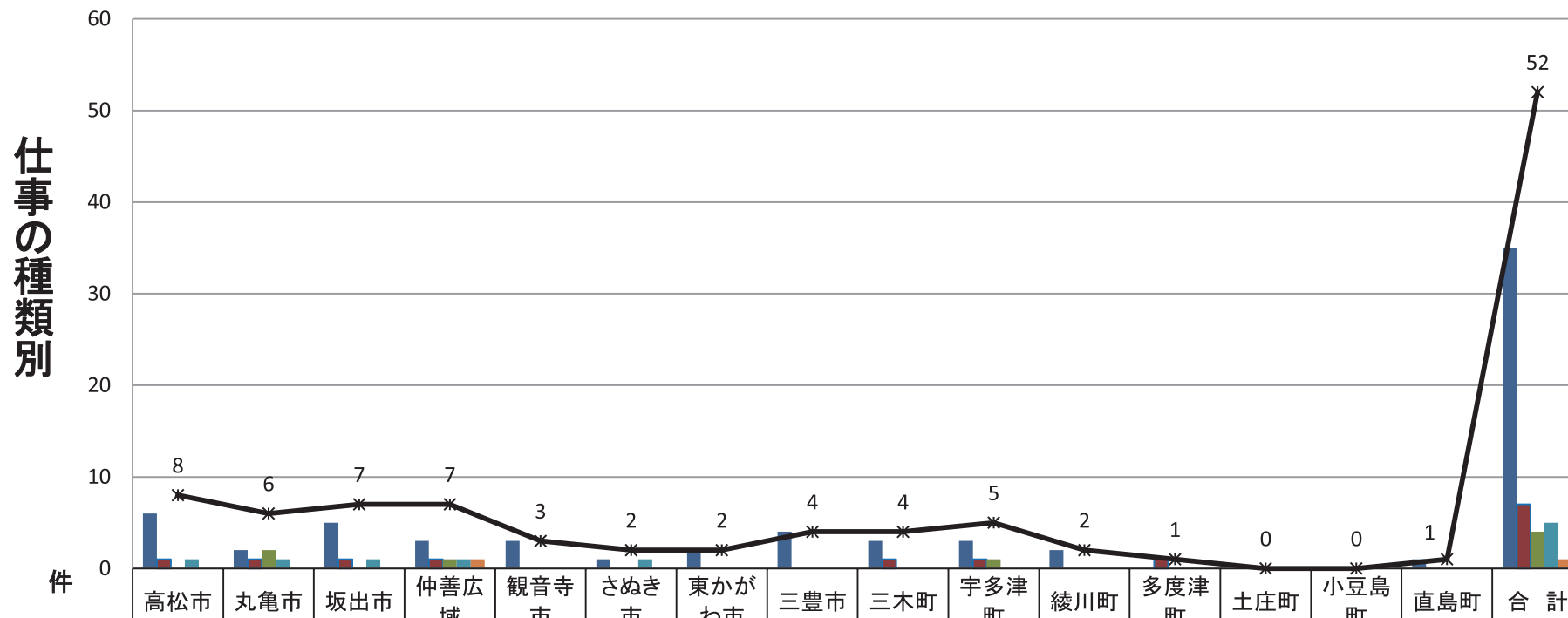
通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心情	再発防止策	安全対策等					発生月日		
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他	
46	"		○	71				○	1	発注者宅において、ほこり取りのモップで清掃中、誤って人形を落下損壊させた。 注意しながら作業をしていたが、モップが当たった。	大丈夫と思った。	作業に際して、細心の注意を喚起						○		12/22
47	"		○	68				○	2	サイドボードを拭き掃除中、誤って手が置き物にあたり、床に落下し破損した。 置き物を移動させなかったためと慣れ仕事であり油断した。	注意が欠けていた。	慣れた作業でも、慎重にしなければならない。						×		1/23
48	屋外作業	○		74				○	4	資源回収のためセンターの軽トラックで運搬途中、立寄ったコンビニから、バックで出庫中、同じく出庫中の車の後部トランクに接触した。 自動車後退時の後方確認の不足が原因。	気が付かなかった。	駐車する際は、バックで入り、出庫時に前進できるようにすること、また、バックの時は注意を怠らないよう指導した。						×		4/15
49	"	○		65				○	7	駐車場横のサツキ花壇の剪定・草抜き作業後、竹ぼうきで片付け・清掃し、そのあと、駐車中の軽自動車に葉っぱがついていたので、軍手で払い落とそうとした際、車に傷をつけた。 車の移動前に、軍手の汚れなどに十分注意を払わなかったことが原因。	深く考えなかった。	作業に際して、細心の注意を喚起するとともに、自動車の移動後に作業することを徹底する。	○					○		5/30

通し 番号	仕事別	性別		年齢	事故の型				就業 人数	事故の状況	心 情	再 発 防 止 策	安全対策等					発生月日		
		男	女		飛 散	接 触	落 下	そ の 他					安 全 帽	安 全 帯	防 護 カ バ ー	ネ ッ ト 等	作 業 前 確 認		そ の 他	
50	"	○		65				○	7	杉の木をチェーンソーとクサビを打ち込んで、近隣建物の反対側に倒木する作業中、予定外の方法(建物方向)に直接もたれかかるように倒れ、屋根を破損した。 枝のバランス等が、思っていた建物側に偏っていたことが原因。	自信を持っていた。	作業に際し、細心の注意を喚起する。						○		6/1
51	"	○		67				○	1	コンバインに乗って稲刈り作業中、畔際にある稲を刈るために近づき過ぎて、ハンドルを切り替えしたところ、コンバイン袋台と分層管フレームをコンクリート畔に接触し破損させた。 ・ 運転操作ミス ・ 事故の可能性の高い就業の受注	自信を持っていた。	発注者所有の動産物、特に収益性のあるものについては、就業を控える。 発注側からの要望が強い場合は、作業範囲や事故時の対応について十分に打合せしてからにする。						×		10/12
52	駐車場 管理	○		73				○	2	駐車場管理において、倒れてきそうな危険な、枯れた竹を切っていたところ、誤って道路に落下し、通りかかった車のボンネットを傷つけた。 打合せ不足などが原因。	深く考えなかった。	事前打合せの強化を図る。						×		5/3

平成28年度 損害賠償事故発生状況(速報) 集計表

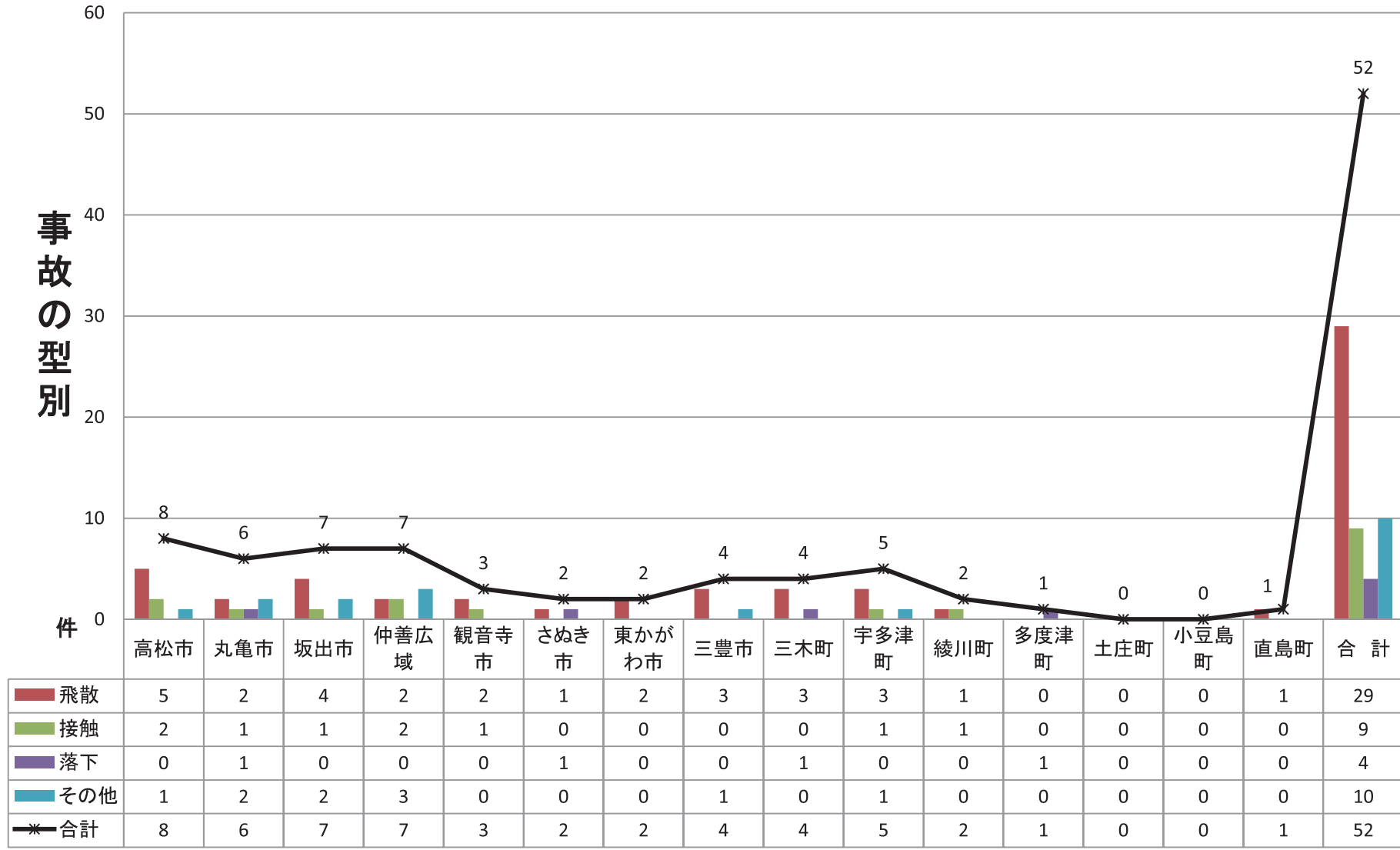
仕事別	件数	事故の型				年齢階層別							性別	
		飛散	接触	落下	その他	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～	計	男	女
除草	35	29	5		1	3	7	12	13			35	35	
剪定	7		3	2	2		2	2	2	1		7	7	
屋内作業	5		1	2	2		3	2				5	3	2
屋外作業	4				4		3	1				4	4	
駐車場管理	1				1			1				1	1	
合計	52	29	9	4	10	3	15	18	15	0	0	52	50	2

平成28年度 センター別 損害賠償事故発生件数(速報) 4月～3月

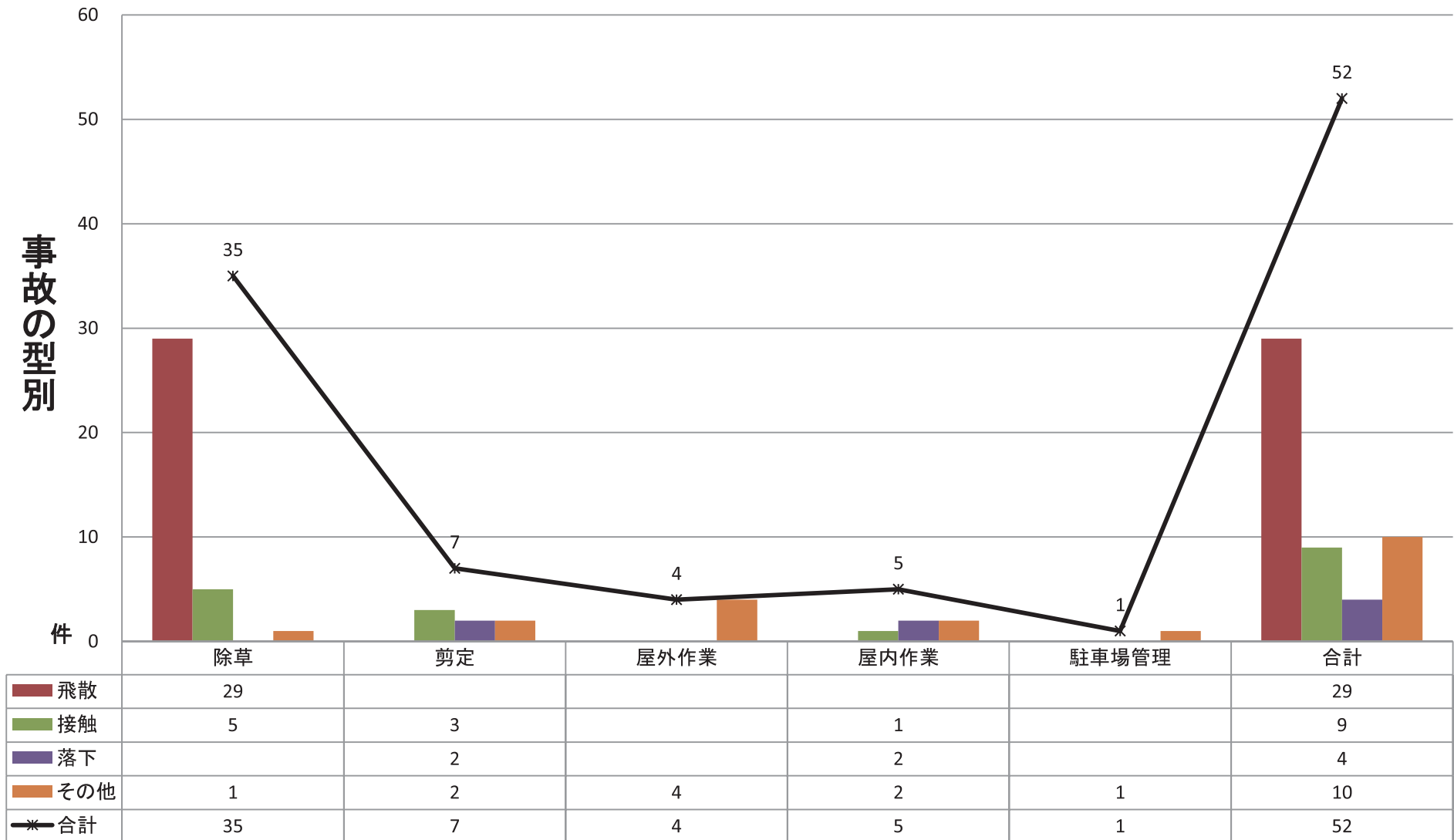


	高松市	丸亀市	坂出市	仲善広域	観音寺市	さぬき市	東かがわ市	三豊市	三木町	宇多津町	綾川町	多度津町	土庄町	小豆島町	直島町	合計
■ 除草	6	2	5	3	3	1	2	4	3	3	2				1	35
■ 剪定	1	1	1	1					1	1		1				7
■ 屋外作業		2		1						1						4
■ 屋内作業	1	1	1	1		1										5
■ 駐車場管理				1												1
—*— 合計	8	6	7	7	3	2	2	4	4	5	2	1	0	0	1	52

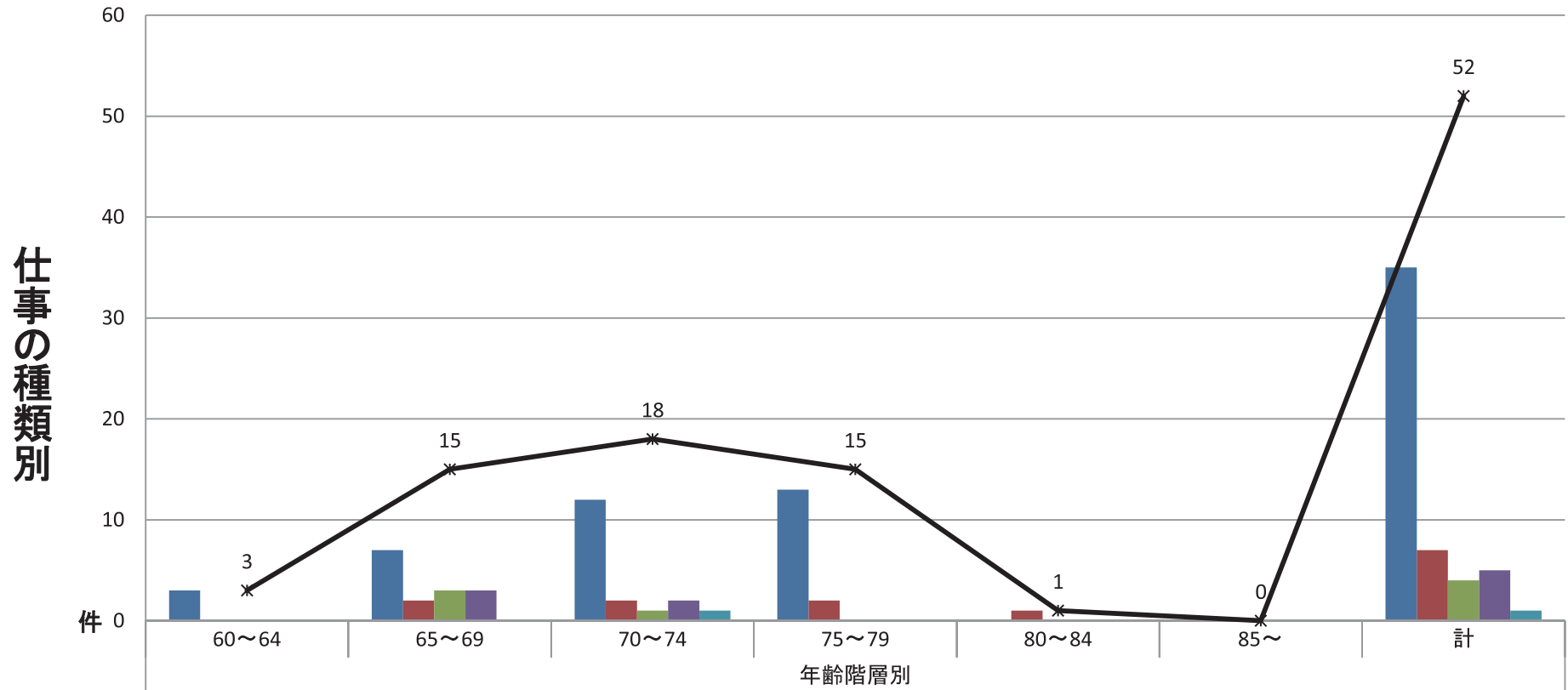
平成28年度 センター別 損害賠償事故発生件数(速報) 4月～3月



平成28年度 仕事の種類別 損害賠償事故発生件数(速報) 4月～3月



平成28年度 年代別 損害賠償事故発生件数(速報) 4月～3月



仕事の種類別	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～	計
除草	3	7	12	13			35
剪定		2	2	2	1		7
屋外作業		3	1				4
屋内作業		3	2				5
駐車場管理			1				1
＊合計	3	15	18	15	1	0	52

1. 損害賠償事故の発生原因

- ① 就業場所の周囲の状況の確認不足
- ② 飛散防護ネットの未使用
- ③ 周囲への安全確認不足
- ④ 車両の移動及び依頼の怠り
- ⑤ 発注者との作業前の調整不足
- ⑥ 就業会員の作業時に於ける注意不足
- ⑦ 道具（三脚等）の不安全な設置

2. 事故後の対応

- ① 会員に対して現場の安全確認や周囲の状況を把握し、安全就業対策を怠らないように周知した。
- ② 作業前に必ず発注者の意向・要望を十分に確認することにした。
- ③ 会員に対して、飛散防護ネットの枚数を増やし、飛散による事故防止を図るように指導した。
- ④ 安全大会等の場で安全就業について、会員に周知した。
- ⑤ 班会議を設け、安全就業について周知した。
- ⑥ 朝礼で会員に事故内容を周知した。

3. 再発防止策

- ① 安全就業委員会等に事故の報告を行い、委員会で原因究明を行う。
- ② 安全講習会への参加の義務付けを行った。
- ③ 安全就業パトロールを実施した。
- ④ 再度、作業マニュアルを確認し、作業の安全性の徹底を図った。
- ⑤ 作業会員に対して、飛散防護ネットなどの飛散防止用具を使用するよう指導した。
- ⑥ 会員へ始末書を提出させ、反省を促した。
- ⑦ 安全だよりにて注意喚起を行った。

4 今後の課題

事故の発生状況は、傷害事故・損害賠償事故ともにここ数年横ばい傾向でなかなか減少していないのが実情です。連合会とセンターが一体となり再発防止対策に取り込むことはもとより、会員一人ひとりがより安全意識を高められるよう啓発活動につとめていくこととする。